

根津弥生七ヶ町



根津弥生七ヶ町連合会

● 昭和29年4月結成

根津宮永町会
根津八重垣町会
藍染町会
根津片町町会
根津宮本町会
向ヶ岡弥生町会
弥生一丁目町会

歴代会長

初代	高橋 武三 (昭和29年4月～昭和30年3月)	十三代	服部 眞一 (昭和56年4月～昭和57年3月)
二代	澤井帝次郎 (昭和30年4月～昭和31年3月)	十四代	山田 大 (昭和57年4月～昭和58年3月)
三代	高橋 武三 (昭和31年4月～昭和32年3月)	十五代	渋谷 鉦吉 (昭和58年4月～昭和59年3月)
四代	菊見 玉蔵 (昭和32年4月～昭和33年3月)	十六代	尼ヶ崎新作 (昭和59年4月～昭和60年3月)
五代	澤井帝次郎 (昭和33年4月～昭和34年3月)	十七代	稲船 清嗣 (昭和60年4月～昭和61年3月)
六代	柏崎 輝 (昭和34年4月～昭和34年11月)	十八代	服部 眞一 (昭和61年4月～平成7年3月)
七代	金岡軒次郎 (昭和34年11月～昭和35年3月)	十九代	菅沼 利雄 (平成7年4月～平成20年2月)
八代	大滝総太郎 (昭和35年4月～昭和36年3月)	代行	瀬戸 克己 (平成20年2月～平成20年3月)
九代	菊見 玉蔵 (昭和36年4月～昭和43年3月)	二十代	瀬戸 克己 (平成20年4月～平成22年3月)
十代	上田 松男 (昭和43年4月～昭和45年3月)	二一代	秋羽 一雄 (平成22年4月～)
十一代	菊見 玉蔵 (昭和45年4月～昭和55年3月)		
十二代	高田 春吉 (昭和55年4月～昭和56年3月)		

地区町会連合会のあゆみ

根津弥生七ヶ町連合会は、根津宮永町会、根津八重垣町会、藍染町会、根津片町町会、根津宮本町会、向ヶ岡弥生町会、弥生一丁目町会で構成されています。地域は、文京区のほぼ東側で、根津1丁目、根津2丁目、弥生1丁目、弥生2丁目である。根津はもともと、宮永町・八重垣町・藍染町・片町・須賀町・西須賀町・清水町で根津七ヶ町と称しました。現在では、宮永町・八重垣町・藍染町・片町の4町会と須賀町・清水町を併せ、根津神社の宮元であることから命名された宮本町会と、向ヶ岡弥生町の一部と西須賀町による弥生一丁目町会と、向ヶ岡弥生町会を含め「根津・弥生七ヶ町連合会」となり、7つの町会が連携し、地域の様々な課題や地域活性化の一助を果たしております。

根津は古くから名の知られた地域であり、弥生土器の出土の地であるとともに江戸時代から伝わる根津神社等、歴史と文化の香り高い街で、昔の面影を残す懐かしい街並みや路地が残っており、休日には写真を撮る人や写生をする人などたくさん観光客が訪れて賑やかな町です。

根津・弥生七ヶ町連合会は、昭和29年に結成され、根津神社を中心とし、大祭、つつじまつり、根津・千駄木下町まつりと地元はもちろんのこと、多くの観光客も訪れる全国規模のイベントに携わっております。

また、毎月月末には、町会同志の連絡調整や連合会としての決定事項を図るほか、行政からの情報共有などを行う場として町会長会議を開催しており、毎月9日には、定例役員会を開催し円滑な連携を図っています。



研修会

過去、30年間で特に大きな出来事としては、平成元年度より、文京区・台東区提携事業「文京・台東下町まつり」が開始され、



夏季レク 1



夏季レク 2



下町まつり テレカ



下町まつり バッチ



下町まつり 1



下町まつり 2

根津神社と谷中墓地の参道を毎年交互に場所を替え、平成10年度まで実施しました。平成11年度からは、文京単独で根津・千駄木下町まつりとして地域の手づくりによる催し物として開催を続けています。今年度（平成24年度）は、第14回を迎え、森鷗外生誕150周年と森鷗外記念館の開館が重なり、プレオープンを行ったり、サブ会場間を繋ぐ無料シャトルバスを導入するな



根津音頭

ど例年になく、たくさんの人出があり、大いに盛り上がりました。

根津神社の社殿が宝永3年（1706）に徳川綱吉によって造営されてから平成18年には三百年を迎えました。9月の記念大祭では成徳4年（1714）に江戸城に入った獅子頭一對と本社神輿三基が氏子町会を渡御しました。

また、今年（平成24年）の祭礼では、七ヶ町連合渡御に参加する七基の神輿と華神輿を加えた八基が揃って、宮入し、例年になく賑わいとなりました。

地域の学び舎である根津小学校が平成9年に百周年を迎えました。明治30年7月4日「東京市根津尋常小学校」として、東京市本郷区根津清水町2番地に開校し、明治41年に全校舎が焼失、明治44年に現在地の根津清水町17番地に新校舎が建てられました。この由緒ある小学校において「根津っ子」が育ち、卒業生には、俳優の大滝秀治氏があります。また、卒業生の多くの方は、根津弥生七ヶ町の町会の重鎮として活躍しています。

また、昭和43年に開設された根津幼稚園は、平成10年には30周年を迎えました。園歌「なかよくあそんで すくすく伸びる子」は弥生在住のサトウハチロー氏が作詞しております。

平成15年、茨城県会館の跡地に外観が古びた木造を思わせる、SRC造の有料老人ホーム「ウィーザス根津」（現在のクラシックガーデン文京根津）が建設され、その老人ホームと根津弥生七ヶ町連合会が、災害時の相互救護活動について「災害時応援協定」を結びました。協定内容は、災害時に、地域住民がウィーザス根津の施設敷地に一時避難場所として受け入れ体制を確保し、逆に地域住民がウィーザス根津の高齢者救



三百年祭 1



三百年祭 2



宮入 1



宮入 2

出活動を行うことを取り決め、木造密集地を抱えた根津地域の自主的な防災対策を図りました。

また、平成23年3月の東日本大震災を教訓に平成23年度には、根津弥生七ヶ町連合会を中心に民生児童委員や根津小学校PTA役員などと根津小学校避難所運営協議会を開催し、平成24年3月に避難所運営訓

練を実施し、災害に強いまちづくりを構築しています。

以上のような安全で安心して暮らせるまちづくりの推進や、良好な地域コミュニティの形成など、さまざまな地域活動を通じて、住民福祉の向上と地域の振興に寄与しております。



根津小1



避難所運営訓練 1



避難所運営訓練 2

根津弥生七ヶ町連合会 年間事業	
月	事業名
4	緑の羽根募金協賛
	根津小学校入学式
	文京つつじまつり協賛
	第八中学校入学式
	根津幼稚園入園式
5	日赤社資募集協賛
	定時総会
6	文町連総会
	ふれあい館運営協議会総会
7	七ヶ町連合会研修会
	文町連研修会
8	夏休みラジオ体操会 (根津神社)
	夏季レクリエーション (ふれあい館)
9	文京区総合防災訓練
	根津神社祭礼 (例祭式 21日)
10	共同募金協賛
	根津小運動会
	文町連功労者表彰 (スカイホール)
	根津・千駄木下町まつり
11	文町連施設見学会
	菊まつり協賛 (湯島天満宮)
12	社会福祉協議会歳末たすけあい運動協賛
	文京区年賀会 (東京ドームホテル)
	本郷消防団初め式・第四分団新年会
1	文町連新年会
	文京区はたちの集い (シビック大ホール)
	七ヶ町連合会新年会
2	梅まつり協賛 (湯島天満宮)
	節分祭 (根津神社)
3	ふれあい館まつり (不忍通りふれあい館)
	文京区政功労者表彰 (シビック小ホール)
	根津・汐見地区合同町会長会議
	根津神社就学児童奉告祭
	根津幼稚園・根津小学校・第八中学校卒業式
	防災避難所運営訓練

町会長会議 (10回) ・ 定例役員会 (10回)
 夏季レク委員会 (2回) ・ 下町まつり会議 (10回)
 ふれあい館まつり企画部会 (2回) ・ 避難所運営協議会 (1回)

年間事業

■ 歴代会長

初代 高橋 武三（昭和28年4月～昭和30年3月）
二代 柏崎 輝（昭和30年4月～昭和34年11月）
三代 金岡軒次郎（昭和34年11月～昭和36年3月）
四代 齊藤喜治郎（昭和36年4月～昭和39年3月）

五代 長井 清水（昭和39年4月～昭和56年3月）
六代 尼ヶ崎新作（昭和56年3月～平成9年3月）
七代 瀬戸 克己（平成9年4月～平成22年3月）
八代 山田 泉治（平成22年4月～）

町会のあゆみ

昭和44年に地下鉄千代田線が開通して不忍通りが大きく変わりました。第7代瀬戸会長が町会の法人化を成し遂げ、また不忍通り拡幅協議会を立ち上げ、積極的に不忍通りの拡幅と電線の地中化に尽力し、見違えるような街並みが完成致しました。

また町会には、創立当時の方から受け継いだ会館（舞台付大広間、20人の座敷、10人の椅子席と台所）があり、町会が管理運営して、町内や近隣の皆さまの便利な集会所として利用されております。

第6代尼ヶ崎会長と第7代瀬戸会長お二人で約30年の期間、町会を支えて頂きました。現在、会員数800余名を数え、役員48名を揃え、月例役員会は、毎月35名程の出席者で町会を運営しております。

行事としては、バスで行く成田山初詣、新年会、つつじ祭り甘酒茶屋一日当番、つ

つじ苑草取り、町会最大行事である夏休みふれあい子供広場（50人の役員・他と300人の来場者）と根津神社祭礼、秋の一泊懇親旅行、60kgの餅つき大会、また七ヶ町の協力としてラジオ体操や下町まつりなど、1年が本当に短く、役員と町会員が丸となって奮闘しております。

平成23年3月11日の東日本大震災の義援金は763,278円の暖かいお心を会員の皆さまから頂戴しました。改めて御礼申し上げます。

これからは、区の景観条例によって下町の風情を残すまちづくりが始まります。今や全国区になったつつじ祭りと、子供の頃に過ごした昔が感じられる町をセットにして、「動物園から日暮里」を合言葉に20年後を楽しみに日本中からお客様を呼べるのではないのでしょうか。



夏休みふれあい子供広場

根津八重垣町会

● 昭和29年9月結成

■ 歴代会長

初代 澤井帝次郎（昭和29年4月～昭和39年3月）
二代 上田 松男（昭和39年4月～昭和50年3月）
三代 海老原島吉（昭和50年4月～昭和54年3月）
四代 浜島 眞一（昭和54年4月～昭和59年3月）
五代 中川 正男（昭和59年4月～平成9年3月）

六代 御器谷育三（平成9年4月～平成10年11月）
七代 大貫 淳二（平成10年11月～平成15年3月）
八代 篠 二郎（平成15年4月～平成19年3月）
九代 藤塚 俊孝（平成19年4月～平成25年3月）
十代 金子 英一（平成25年4月～）

町会のおゆみ

当町会は不忍通りの両側に面し、一つの町及び商店街を形成しています。現在、通り側は殆ど10階以上のマンション群によって囲まれ木造住宅は少なくなりました。

4月の文京「つつじまつり」に始まり9月の根津神社ご祭礼・10月の根津千駄木下町まつり・2月ふれあい館まつりと地域の祭り行事に積極的に参加をしています。

町会の行事としては5月に潮干狩りを兼ねてバスレクリエーションの実施。毎月第1日曜日のクリーンディは朝の10時から1時間程、街の清掃活動を町会員と一緒にしています。

正月には商店会・町会と合同で新春懇親会を子供やお年寄りを交え開催しています。春秋の交通安全週間への参加、12月下旬から2月初旬にかけて夜警(火の用心)及び(防犯)を兼ねて実施しています。

当町会の広報誌として四半期に1回「やえがき」を発行し、町会員とのコミュニケーションづくりを行って掲示板及びマン

ション内へ掲示をして意志の疎通及び町会内の情報の伝達に努めています。

敬老の祝いとして70歳・75歳の方80歳以上の方に町会からお祝いを贈っています。

又、20歳の成人になった方・小学校入学する方にお祝いを贈呈しています。

これからの課題としてはマンション在住の方とも情報交換を多くし、来るべき災害等に幾らかでも町会としてお手伝い出来るように努めていきたいと思っています。



町会タウン誌



潮干狩り



祭礼

■ 歴代会長

初代 山田 和助（昭和27年5月～昭和43年4月）
二代 浅野 末吉（昭和43年5月～昭和47年4月）
三代 村田松之助（昭和47年5月～昭和49年4月）
四代 北野 虎蔵（昭和49年5月～昭和51年4月）
五代 鎗 新（昭和51年4月～昭和53年4月）

六代 服部 眞一（昭和53年5月～平成14年4月）
七代 北野 嘉光（平成14年5月～平成20年4月）
八代 杉山 八郎（平成20年5月～平成24年4月）
九代 吉田 禎介（平成24年5月～）

町会のおゆみ

当町の名称の由来につきましては、明治5年に当時町に沿って流れていた藍染川に因み、町名を藍染とすると伝えられている。

又、当町会の発祥は明治41年3月に染親会と称する組織ができて町会運営の基礎となり大正に入り藍染町々会と改称された。

戦後一時期町会活動の禁止があり、その解除に伴って昭和27年5月に新生藍染町会として創立された。

歴代会長のもと、役員並びに会員の協力を得て各種の活動を行い今日の隆盛を見るに至った。

当町会は青年部、婦人部の活動によりさまざまな行事を展開しています。

まち中央を通る区道藍染大通りは日曜日ごとに歩行者天国となり、この空間を利用して4月のつつじ祭りには来訪者の休息所を設営し、湯茶接待、すいとん、焼きそばなどの軽食提供、フリーマーケットの運営などを実行しています。

秋には本郷消防署、根津出張所、第4分団などの協力指導のもとに防災、防火フェスタを開催して煙体験訓練、担架作成、AED取り扱い、はしご車体験、スタンドパイプ取り扱い及び放水訓練を

実施して町会員の災害に対する意識の高まりを育むように取り組んでいます。

下町祭りでサブ会場になる藍染大通りでは3世代まち遊びを企画、町内の藍染保育園、父母会、園児、NPO法人の協力を得て、下町祭り来訪者と一緒になって下町昔あそびを楽しんでいます。

当町会は高層の建物もなく、伝統的な下町情緒を保ちながらユニークな小店も新しく展開し、町並みを形成しています。

文京区の町並み、景観形成重点地区に指定されている当町会、まちづくりで下町情緒や人情を大切にして町会員相互の絆をより育み、居心地の良い町会運営を心がける所存です。



三世代まち遊び風景



防火・防災フェスタの風景
(スタンドパイプ放水とはしご車)

■ 歴代会長

初代 里見 博康（昭和29年9月～昭和54年3月）
二代 山田 大（昭和54年4月～昭和62年3月）
三代 中村 兼松（昭和62年4月～平成11年7月）

四代 富田 昭一（平成11年8月～平成17年6月）
五代 秋羽 一雄（平成17年7月～）

町会のあゆみ

当町会名の根津片町は東側は、谷中と隣接し南は言問通りに面している根津2丁目中央部の旧町名であります。古くは甲斐甲府藩主松平綱重邸の敷地に含まれており俗に元屋敷と呼ばれた土地の一角でした。宝永元年（1704）綱重の子綱豊が五代將軍綱吉の養子となり西の丸に入ると、綱豊の産土神であった根津神社は、藩邸を社地として与えられ同3年に遷宮します。同5年幕府小人組の町屋敷代地となり、正徳元年（1711）には、その一部が、谷中片町拝領町屋となりました。明治5年（1872）谷中片町（現台東区）の飛地と周辺の武家地を合わせて、『根津片町』が成立しました。昭和40年の住居表示変更に伴い根津2丁目となります。大正末年に暗渠となるまで、谷中の寺町に面した町の東側と言問通りの南側を藍染川が流れていました。本郷台地と谷中からの坂を下りきった交差点近くで地勢が低く以前は大雨による浸水に悩まされてきましたが、下水、治水工事でそれも

過去のものとなりました。世帯数はおよそ240。この辺りは幸いにも関東大震災や戦災の火の手を免れたため、古くからの居住者が多い町です。長い伝統を持つ町は昔ながらの心持ちで隣近所との助け合いの精神が受け継がれ、人情や親しみやすさ、優しさの下町気質で団結しています。町会では40名の役員を中心に、防火防災・交通安全・防犯活動・福祉厚生に努め町の親睦を図り近隣の町会とともにさまざまな文化活動を行なってきました。一方、婦人部は、廃品回収活動を長年にわたり続けています。町をあげて行われる秋の根津神社祭礼には老若男女50名の祭礼委員を中心に大中小3基の神輿が山車お囃子とともに繰り出され町内の親睦の象徴となっています。住宅街を商店街が包んだ形の当町の中心部には、戦後、町会と住民の宿願だった根津二丁目児童遊園が作られ、大通りから入った路地裏にあり、静かで安心でき、緑も豊富、手入れも行き届いた気持の良い公園です。



路地



祭礼



根津二丁目児童遊園

■ 歴代会長

- 初代 菊見 玉藏（昭和30年4月～昭和55年3月）
二代 稲船 清嗣（昭和55年5月～平成6年3月）
三代 菅沼 利雄（平成6年4月～平成20年2月）
四代 宮田 昇（平成20年4月～）

町会のあゆみ

根津宮本町会は、本郷台地の旧一高跡地を東に下った裾で、北は千駄木、南は弥生坂に接する平地部で、根津小学校及び根津神社を擁する位置にあり、古くは徳川中期6代将軍家宣公時代から、根津神社の門前町として、お茶屋も多く賑ったとさる地域であった。明治期になり町名制定された根津須賀町、根津西須賀町、根津清水町の3町が時代の変遷と共に順次町会組織されたが、昭和12年地域整備により3町会を統合し、その名称を由緒ある根津神社の宮元であるということから、「根津宮本町会」とした。昭和20年終戦と共に、町会組織は解散させられたが、町内相互の連絡等、親睦機関として親和会を結成運営した。

昭和30年4月会員の強い要望があり、親和会を発展的に解消し新生根津宮本町会として隣人愛を基調とする会員相互の親睦並びに福祉の増進、生活の安全を遂行する目的をもって創立された。

町会活動は年間を通し活発に行われ、会員総会で決議された事業計画、収支予算案に基づき実行されており、昭和

時代から平成にかけては盛んだった町内の消毒事業や子供会、親睦の宿泊旅行会等は行われなくなり、青年文化部主催の夏休み日帰りバスハイクは親子で参加する楽しい行事になっている。秋の根津神社祭礼には、金の獅子頭で飾られた大太鼓の山車を多数の幼児や子供達等による町内巡幸は根津地域の風物詩でもある。

町会事業は会員相互の協力や親睦により町内自治発展のために、古き良き伝統として受け継ぎ、毎月行う資源回収、年末からの夜警等を行い、行政関係、各協会、協議会等の各種事業に積極的に協力して運営されている。



根津神社 鳥居

向ヶ岡弥生町会

● 昭和30年9月結成

■ 歴代会長

初代 大滝総太郎（昭和30年9月～昭和45年3月）
二代 境 健造（昭和45年4月～昭和46年3月）
三代 三好 栄（昭和46年4月～昭和48年3月）
四代 高田 春吉（昭和48年4月～昭和51年3月）
五代 北川兼次郎（昭和51年4月～昭和53年3月）

六代 高田 春吉（昭和53年4月～昭和57年3月）
七代 高田 榮一（昭和57年4月～昭和62年7月）
八代 鈴木 健之（昭和62年8月～平成21年3月）
九代 角田 昌子（平成21年4月～）

町会のあゆみ

当地は、かつて水戸藩の中屋敷でありました。明治5年、初めて明治政府による町屋制で新しい町名、旧「向ヶ岡弥生町」が誕生しました。この町名の由来は、「文政十余り一という年のやよい十日……名にしおう春に向ふか岡なれば世にたぐいなき花の影かな」これは水戸藩主9代目徳川斉昭が、対面の上野台地から吾が屋敷周りを望み、春先の見事に咲き誇る桜を詠んだ歌とされ、屋敷跡地に残された徳川斉昭の歌碑から引用、向ヶ岡弥生町が生まれたとされております。この「向ヶ岡記碑」は現在も東大の浅野校舎敷地内に大切に保存されております。また明治17年にはここの貝塚から土器の壺が発掘され、当町名の弥生をとり「弥生式土器」と命名されました。この記念碑「弥生式土器発掘ゆかりの地」は当町会の先人達が残してくれた大切な財産で、今日まで町会の管理下で保存されております。

「向ヶ岡弥生町会」は、昭和30年5月戦災の復興も一段落した頃、戦後の町会として再出発しました。約60年経過した現在、当時と比較して私達の街なみ、居住者、環境もずい分変貌いたしました。当町会としての本質の部分は殆ど変わっていないと信じております。それは、先人達が過去に

築いた町会としての誇りや、良き伝統です。先人達の功績に感謝し、この精神は大切に忘れず現状の町会活動に活かしていきたいと考えております。そして、次世代にも同様、正しく伝承、継承していく所存です。

当町会を構成する弥生2丁目は、東京大学の本郷、弥生両キャンパスに接し、浅野キャンパスを取り囲む地勢にあります。アカデミックで文化的香りもたたえながら一方では下町情緒の根津地区に隣接した環境にも恵まれて人情のぬくもりに触れ、根津神社を中心に集う様々なイベントを通しての広域的な地域活動への関わりも、大切にしていって向ヶ岡弥生町です。



弥生土器記念碑にて
右より 角田会長、吉羽総務部長、小泉副会長

■ 歴代会長

初代 金津 熊夫（昭和32年4月～昭和39年3月）
二代 松角 武忠（昭和39年4月～昭和46年3月）
三代 高野 与作（昭和46年4月～昭和51年3月）
四代 村松 道弥（昭和51年4月～昭和54年3月）

五代 渋谷 鉦吉（昭和54年4月～平成12年3月）
六代 横田 彰一（平成12年4月～平成18年3月）
七代 柳谷 邦章（平成18年4月～平成20年3月）
八代 佐藤 康祐（平成20年4月～）

町会のあゆみ

当弥生一丁目町会は戸数約200世帯余の住宅地域にある町会で、昭和初期には西須賀町と向ヶ岡弥生町とで形成され西須賀弥生会と称されていた時期もあったが、昭和40年の住居表示改称により西須賀町と東京大学農学部全域（旧制第一高等学校）を含み弥生一丁目町会と改称されました。

南に東京大学農学部、東に根津神社、北に日本医科大学付属病院と、学舎・神殿・医療機関に三方が接しており、根津権現坂の上に位置する町会です。

近年日本の少子化が深刻な社会現象となっておりますが、当町会もご多分に漏れず子供の少ない地域であることから、秋の根津神社例大祭では祭礼役員が趣向を凝らし水ヨーヨー、輪投げ、焼きそば、フラン

クフルトなど準備して、多くの子供たちの参加を呼び掛け町会あげて奮闘しております。

また、町会住民が町会行事にご理解して頂き、気軽に行事に参加して頂けるよう毎年文化部を中心に企画して、新年会や親睦会などを開催しております。

婦人部は町会事業のほか「日赤活動、歳末助け合い」などさまざまな活動に参加しており、年末には保安部を中心に3日間町内「火の用心」巡回も行い「防犯・防火・厚生」などに真摯に努めております。

今後も町会の住民と更に親睦を図り、明るく住みよい弥生一丁目町会を目指し会長並びに役員一同、町会自治発展のために尽力してまいります。



秋例大祭



弥生一丁目町会役員一同